NEWS 病院ニュース

2013年4月
第33号
（年4回発行）

主な内容

1 ・「がんからあなたの命を守るために」がんを考える市民公開講座開催
・予防医学で世界を変える！「国際共同大学院」を設置

2 ・マナーやサービスの強化をめざし優れた活動やスタッフを表彰
・［病院からのおしらせ］「受付番号によるご案内」がスタート／通院治療室のベッド数が増床
・患者さんの声

3 ・「第2回臨床研修報告会」を開催
・公共交通機関利用のお願い
・［ミニニュース］JEF市原・千葉の選手が当院を訪問しました／記者懇談会を開催

4 ・［フリートーク］救急部・集中治療部 教授　織田 成人
・［トピックス］五月病
・［ちばをてくてく］⑨三陽メディアフラワーミュージアム

千葉大学医学部附属病院　〒260-8677 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1
TEL 043-222-7171（代表）
http://www.ho.chiba-u.ac.jp/

ホームページで「病院ニュース」のバックナンバーがご覧いただけます。

「がんからあなたの命を守るために」

―がんを考える市民公開講座― 予防法や先端的治療などに関心高く

◎1月27日（日）　◎京葉銀行文化プラザ

宮崎勝病院長の開会挨拶にも熱がこもっています

千葉大学病院が、地域の皆さまを対象に行っている「がんを考える市民公開講座」が、今年も行われました。

今年のテーマは、「がんからあなたの命を守るために」。今や日本人の2人に1人がガンになり、3人に1人ががんで死ぬといわれている時代です。健康な生活は誰もが望むものですが、がんは最も嫌われ、恐れられている病気のひとつです。しかしながら、現在のがん医療がどうなっているのかは、十分に知られているとはいえません。

市民公開講座では、「千葉県の積極的なガン対策」について篠崎久美さん（千葉県健康福祉課）が解説したのを皮切りに、当院スタッフによる「がんの予防法」、「先端的治療法」、「精神的・社会的問題に対するアプローチ」についても解説しました。

想定を大きく上回る参加者数だったため、急遽座席を増設。参加者からはたくさんのご質問もいただき、改めてがんに対する皆さんの関心の強さが分かりました。

千葉大学病院は平成20年以降、がんに関する市民公開講座を毎年開催し、今回で6回目になります。特に最近5回は県内の主ながん患者団体のご協力によるブース展示もあり、多くの参加者が相談に訪れていました。次回開催は平成26年1月26日（日）です。詳細は病院ニュース、ホームページでお知らせします。次回もどうぞお楽しみに！

（臨床腫瘍部　教授　滝口裕一）

たくさんのご来場者で、会場は熱気につつまれました

今回の市民公開講座の講演内容は、千葉大学病院ホームページの「がん情報サイト」で公開する予定です。市民公開講座、がん患者向け勉強会、患者サロンなどの開催案内や、患者相談支援センターについてもお知らせしていますので、ぜひ、ご覧ください。

◎病院ホームページ
http://www.ho.chiba-u.ac.jp/
◎HP内「がん情報サイト」
http://chiba-ho.umin.jp/

千葉大、金沢大、長崎大の強みを融合

予防医学で世界を変える！「国際共同大学院」を設置

千葉大学は、文部科学省の国立大学改革強化推進事業において、金沢大学、長崎大学と共同で、「国際共同大学院」を設置することが決定しました。3大学が大学の枠を超えて「真の疾患予防」を目指す、革新予防医科学分野の共同大学院となります。

21世紀は「環境の世紀」、そして医療の分野では「予防医学の時代」と言われています。医学における病気への基本的対応は、原因を見つけ、治療法を開発し、そして予防法を確立することです。

たとえば「水俣病」のように、環境汚染によって多くの人が苦しんだ疾患も、原因物質を特定し、対策をとることで予防が可能になります。予防ができていれば、発症してから治療するよりも、患者さん本人はもとより、家族や社会が受ける精神的、経済的なダメージを減らすことができます。

「予防にまさる治療なし」と言われるとおり、私たち予防医学センターのグループは、これまでにも環境由来の疾患の原因研究に努めてきました。「国際共同大学院」の設置を契機に、今後も予防法を研究し将来起こりうる疾患を予防する研究に力を入れていきます。

（予防医学センター長・大学院医学研究院
環境生命医学　教授　森　千里）

いのはなコラム　古い器の楽しみ方

古い陶磁器が好きで時に買い求めたりしていますが、古い器には傷があるものがあります。よく使う徳利は江戸時代初めの頃のもので、口のあたりが細かく割れて修理されています。破片を漆で接いで漆に銀をかぶせた銀繕いというものですが、非常に丁寧に修理されているところをみると持ち主は随分と気に入っていたのでしょう。ある時、大事な徳利の口辺を割ってしまい、家の人が割ったのであれば、家族内にちょっとした波乱があったかもしれません。しかし、きれいに繕われて戻った徳利を持ち主も家族も喜んで、前以上に大切にしたのではないでしょうか。そのおかげか時を経て、今は私の手元にあります。

こんなことを想像しながらお酒を飲むと、昔の器が生き生きとしてくるように思えます。夜遅くに帰宅してのちょっとした楽しみです。

（千葉大学名誉教授　河野陽一）

「より安全に、より質の高い医療を」
マナーやサービスの強化をめざし優れた活動やスタッフを表彰

ベストマナー賞を受賞したスタッフは、周囲によい刺激を与え、病院全体のマナーやサービスの向上に努めます

医療安全ベストプラクティス賞
安全対策の取り組みを各部署から募集

安全な医療のために病院内の各部署では、さまざまな安全対策の取り組みを行っています。それを病院内のスタッフに知ってもらうために「医療安全ベストプラクティス」を募集しました。

平成21年度より始まったこの取り組みは今回で4回目になります。24年度もたくさんの応募がありました。寄せられた演題は、各部署のリスクマネージャーが部署の意見をまとめるとともに、医療安全管理部員が投票をし、「金賞」「銀賞」「銅賞」を決定。各演題の成果発表会および表彰式を行いました。

平成24年度金賞に選定されたのは、薬剤部の「薬剤師の病棟常駐をしています」というもの。薬剤師が病棟常駐をすることで、患者、医師、看護師とのコミュニケーションが密になり、患者さんの病態や病状の経過を把握することができ、より質の高い薬剤供給ができるようになりました。

「ベストプラクティス賞」の選定は本年度も続けられます。

ベストプラクティス賞の成果発表会

ベストマナー賞
25名のスタッフが病院全体の模範に

2月27日、「ベストマナー賞」の表彰式が行われ、受賞者25名に宮崎病院長より表彰状が授与されました。

平成17年より実施しているこの賞は、患者さんと接する機会の多い看護師・看護補助者・クラークについて、身だしなみやマナー、態度などを評価し、意識を高めていこうとするもの。患者さんへのマナーが守られ、思いやりのある対応ができている病院スタッフを選出。受賞したスタッフが模範となり、千葉大学病院全体のマナーとサービスの向上につながることが期待されています。

患者さんの声

皆さまからこんな声が届きました。
患者さんの声にお答えします。

ご要望

Q　母が入院でお世話になり、ありがとうございます。体力が落ちてきたせいか、布団が重くてかけるのが辛いとこぼしておりました。もう少し軽い布団を用意していただけるとありがたいです。

A　院内の掛け布団は二枚合せになっており、これを一枚にすることで調整できるようになっています。また、単に一枚では寒いという場合には、タオルケットなどを上に掛けることも可能です。病棟スタッフとも打ち合わせておりますが、ご説明が行き届かなかったと思われます。申し訳ありませんでした。

暑い・寒いなど、その他お気づきの点は遠慮なく病棟スタッフへお申し出下さるようお伝えください。このたびは貴重なご意見をありがとうございます。

病院からのおしらせ

外来で「受付番号によるご案内」がスタート

2月から、各診療科（総合診療部を除く）では、診察室または中待合室へのお呼び出しを、液晶ディスプレイを使い、受診票の受付番号でお知らせしています。

診察の順番が来るとディスプレイに受付番号が表示されます

患者さんの待ち時間を少しでも快適にできるよう、ディスプレイには診察待ちの人数も表示するようになりました。

新しいシステムのため慣れるまでご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。わからないことがありましたら、お気軽に病院スタッフに声をおかけください。

通院治療室のベッド数が増床

通院治療室は、外来棟地下1階で、抗がん剤点滴やホルモン剤の注射を受ける患者さんの治療を行っています。平成17年8月の開設当時15床だったベッド数は、来室患者さんの増加に合わせて移転や改修を繰り返しながら、22床、24床、25床、そして今では年間のべ1万人以上の利用者数をなったため、今年の3月には30床に増床しました。

平成26年度に新外来棟が完成すると、眺めのよい5階建ての最上階で快適に治療を受けていただける50床の治療室がオープンの予定です。

現在の治療室

「第2回臨床研修報告会」を開催

3月修了の研修医たちが臨床研修体験をスピーチしました

◎ 3月3日(日)　◎ 病院第1講堂

受賞者と、選考にあたった病院の医師たち

千葉大学病院の「臨床研修プログラム」を平成25年3月に修了した研修医22名と、君津中央病院の「プログラム」を修了した研修医1名による「第2回臨床研修報告会」が開催されました。

これは、一年間の臨床プログラムを体験した医師たちが、自らの臨床研修を振り返ってスピーチをするというもの。臨床研修で培った診療能力、考察力、プレゼンテーション能力を存分に発揮し、症例報告や症例研究報告を行いました。

最優秀賞には佐々木梨乃医師、優秀賞には黒川友哉医師、佐々木亘亮医師が選ばれています。

受賞した（左から）佐々木梨乃、黒川友哉、佐々木亘亮各医師

報告会終了後には、授賞式と情報交換会を行いました。臨床研修の貴重な経験を共有し、医師としての今後の抱負を語り合うよい機会になったことでしょう。今後の活躍に期待します。

～公共交通機関利用のお願い～

新外来棟の完成予想図

新外来棟の工事に伴い、駐車スペースが減少し、ご来院の皆さまには大変ご迷惑をお掛けしております。病院にお越しの際は、なるべく電車、バス、タクシーなどの公共交通機関をご利用下さいますようお願い申し上げます。

mini news

JEF市原・千葉の選手が当院を訪問しました

JEF市原・千葉の監督と選手が小児病棟を訪れ、入院中の子どもたちと交流しました。子どもたちとペアを組んで、チーム対抗のサッカーボールゲームを楽しんだほか、じゃんけんゲームや写真撮影を行い、選手のサインがプレゼントされました。

クリーンルームや病室を出られない子どもの部屋にも訪れて元気づけていただき、病棟に笑顔があふれました。

選手とじゃんけんゲームなどで遊ぶ子どもたち

記者懇談会を開催

2月15日、報道機関の皆さまとの関係づくりの一環として、記者懇談会を行いました。病院から先進医療への取り組みや、工事が進んでいる新外来棟のくわしい機能、新たに始まる千葉医療機関ITネットなどを説明（下記の表参照）。多くの質問が寄せられ、双方向のコミュニケーションを深めることができました。今後の情報発信に生かしてまいります。

議題
千葉県初の補助人工心臓埋め込み手術
千葉医療機関ITネット
高齢社会を考えるシンポジウム（4月9日開催）
病院の食事サービスにおける質改善の取り組み
新外来棟工事

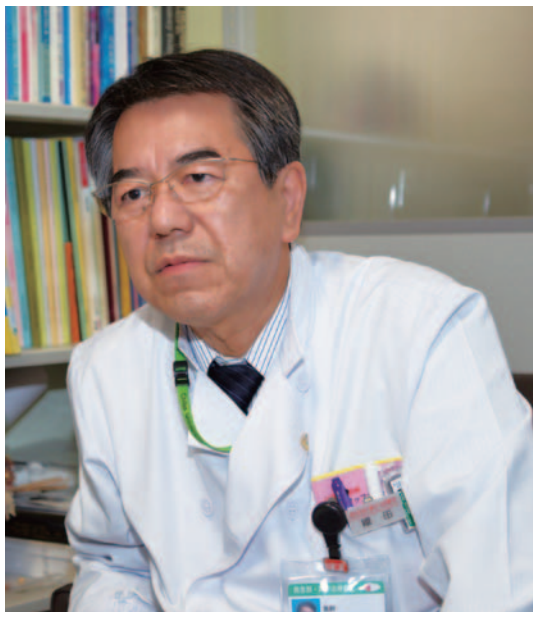
開催の挨拶をする宮崎病院長

記者の質問に答える山本副病院長

救命救急医は全身管理のスペシャリスト
病院の内外で、救急集中治療につとめています

FREE TALK フリートーク

千葉大学医学部附属病院
救急部・集中治療部 教授
織田（おだ）　成人（しげと）



最重症の患者さんを治療

今朝も5時50分に急患で呼ばれ、午前中に他病院からの患者さんを引き受けたところです。千葉市の救急医療体制のなかで、千葉大学病院は三次救急医療機関に指定されているので、救急部では、重症な救急患者さんや他の病院から紹介された患者さんを受け入れ治療しています。そして集中治療部では、術後の重症の患者さんの治療にもあたります。

アメリカのER式に救急患者の外来だけを診る病院もありますが、救急患者さんを最後まで診ることにこだわっています。全身管理のスペシャリストが救急医であり集中治療医であると考えるからです。

医師を志したのは兄の影響ですね。今は埼玉医大にいるのですが、鹿児島で下宿していた高校時代から、医師を目指して東大に入った兄を見ていて、自然にめざすようになりました。救急をやろうと思ったのは、医者になるからには、生死にかかわる場所で勝負をしたいと思ったからです。

千葉市の救命医療体制に貢献

昔は救急医療体制が整っていなかったり、救急医もいなかったこともあって、病院の外で心肺停止になると、助かる方は1～2％でした。それが最近では、心肺停止しても、周囲に人がいれば、7～8％は助けられるようになっています。それでも海外に比べるとまだまだ低く、もっとも高いといわれるシアトルは40％。これには市民の協力も必要で、シアトルは市民の7～8割が心肺蘇生法を会得し、救急システムも整備されているんです。

僕らも「千葉を日本のシアトルに」を合い言葉に、千葉市の医師会と提携し、学校教育に心肺蘇生のトレーニングを取り入れたり、医師会で指導したりしています。

救急救命士の制度ができて以来、千葉市の救急医療体制は変わり、我々も病院内にとどまらず、現場に出かけて治療もします。千葉市の消防局内で常駐医の役割をしたり、病院から離れた場所の急患の場合、消防のヘリに病院に迎えに来てもらい、当番のスタッフが乗って現地の救急車と合流し、そこで治療するという方法をとっています。昨年はこれで20数例の患者さんを助けています。

院内でも「METコール」を取り入れ、異変が起こったときには、内線をコールすると、当番の医師が院内のどこにいても駆けつけられるようになっています。どんな状態になっても、「千葉大学病院にいれば安心」、患者さんにそう思っていただける、病院全体の安全管理にも貢献できればと思っています。

Profile

織田　成人（おだ しげと）

鹿児島県出身。昭和53年、千葉大学医学部卒業後、千葉大学医学部第二外科に入局。昭和61～63年、米国Duke大学麻酔科に留学。昭和63年より千葉大学医学部附属病院救急部・集中治療部。平成18年、千葉大学大学院医学研究院救急集中治療医学 教授。専門は、ショック、敗血症性多臓器不全、急性血液浄化法。研究にも力を注ぎ、「日本版敗血症診療ガイドライン」を完成させたばかり。
妻、社会人になった長男との3人家族。趣味はジョギングとサッカー観戦。平日は5～8キロ、休日には10キロを走る。今年1月には「サンスポ マリンマラソン」でハーフマラソンを完走した。

ちばをてくてく 9 三陽メディア フラワーミュージアム

かぐわしい花の世界を愛でる、初夏の花さんぽを

4月から名称が変わったばかり（旧名称は「千葉市 花の美術館」）。稲毛海岸の近くにある「花」をテーマにしたミュージアムです。建物の前面に広がる「前庭」の花壇も、初夏はとても華やか。4月には色とりどりのチューリップが、訪れる人をさっそく笑顔にしてくれます。

館内の花壇は、4月にはデルフィニウム、マーガレット、5月にはミニバラ、ユリ、アジサイなどの身近な花々が、中庭、脇庭、後庭には、ワスレナグサ、アイスランドポピーなどが見ごろ。さらに「バラの小径」に愛らしいイングリッシュローズが咲き始めそうです。

高さ23m、直径33mの温室のなかは、さながら南国の森。色鮮やかな南国の花や洋ランが甘い香りを放っています。「モネサロン」に展示されている、パリのオランジュリー美術館の「睡蓮の部屋」収蔵の「日没」と「緑の反映」の原寸大レプリカも必見。花の科学を体験できるコーナーや図書室もあります。かぐわしい花たちを愛でたあとは、隣接する「レストラン ブリランテ」でブレイクしたり、稲毛海岸に出て、浜辺を歩くのもおすすめ。初夏らしい花さんぽが楽しめそうです。

◎三陽メディア フラワーミュージアム
千葉市美浜区高浜7-2-4
TEL：043-277-8776（9:30～17:00）
JR稲毛駅、JR稲毛海岸駅、京成稲毛駅からバス
http://www.floral-museum.jp/

5月に見ごろを迎えるローズガーデン

トピックス TOPICS 「五月病」は休息の状態

いまの時季になるとよく耳にする「五月病」という言葉。これは精神医学的な病名ではなく、大学の新入生や新入社員が、新しい環境に適応できないことから5月頃に陥る意欲低下を表す造語です。また、大学入試時に5時間睡眠では不合格、4時間睡眠で合格という「四当五落」という言葉があります。

この二つには大きな関係があります。最近、「双極性障害」という病気が注目されています。一般人口の6～9％で経験する一般的な病気ですが、この4、5時間睡眠というのは短時間睡眠にあたり、この状態は「軽躁的状態」と考えられます。そうです「五月病」は「双極性うつ病」の可能性が高いのです。同様の症状は、企業人が大きなプロジェクトを不眠不休で仕上げた後にも見られます。

つまり「五月病」は、社会的には、「頑張ってきた人」がその反動として患う「休息の状態」で、精神医学的には「双極性うつ病」ということが考えられます。ほかにも類似の症状を来す身体疾患や精神疾患もあるので、「五月病」を「サボり」と考えずに一度専門家を受診することをお薦めします。

（精神神経科　教授　伊豫雅臣）

あとがき

3人の男が働いている。「君は何をしているんだ？」と尋ねたら、1人目は「レンガを積んでいる」、2人目は「塀を作っている」、3人目は「大聖堂を作っている」。同じ仕事をしていても、考え方次第で充実感やビジョンが全く違う、というハワード・ゴールドマン著「すごい考え方」の有名なくだりです。

まさに当院も現在、外来診療棟を新築中ですが、単なる拡張工事ではありません。今後、ますます加速する高齢化にも対応した地域医療を担う砦をつくっていると自負しています。来年5月末まで、ご不便をおかけして申し訳ありませんが、ご理解をいただければ幸いです。

（編集委員　総務課　鹿野由利子）